

自己評価報告書(最終報告)

報告者

学校・学級経営コース
／前田 洋一

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

平成24年度研究課題「教育委員会・学校と連携した教職大学院の機能強化に関する実践的研究」基盤研究(C)に申請した。採択された場合は、本研究を進めていくが、不採択の場合でも、研究内容・方法を再検討し、教育委員会との連携した教職大学院の実践について、平成25年度申請に向けて取り組む。

2. 点検・評価

平成25年度研究課題「集学的アプローチによる幼小接続カリキュラムの開発」基盤研究(C)に申請した。残念ながら不採用であった。次年度も、研究内容・方法を再検討し、平成26年度申請に向けて取り組む。
平成25年度研究課題「グローバル人材育成のためのカリキュラム開発に関する理論的・実践的研究」基盤研究(B)に研究分担者として申請に参加したが不採用であった。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

教職大学院では、定員確保に向けて、平成25年度までに組織改革、カリキュラム改善に取り組んでいる。平成24年度には、運用可能なカリキュラムについて実質的検討を加えていく。
これまで、社会貢献活動として、徳島県だけでなく他の都道府県において講演活動を行っている。その際には、必ず本学教職大学院についての説明を行うと共に入学の勧誘を行っている。本年度も継続しておこなう。また、他大学での研究会等でも広報活動を行う。

2. 点検・評価

教職大学院におけるカリキュラムを「院生の最善の利益」目的に改正した。次年度は、いよいよその実施である。常に評価を行い更なる改善に努めていく。これが、直接的ではないが定員充足の大きな柱であると考えている。
直接的には、大学委訪問を個別に行い受験を考えている学生に個別に相談活動を行った。SRコースに受験を進めた結果、入学していただけた。今後も個別の大学訪問を充実させていきたいと考えている。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

平成25年の組織改編に向けて、カリキュラムの改善に取り組む。
ワークショップやシミュレーション、事例分析等を積極的に取り入れ、実践力の育成を目標として授業展開をする。
教育庁義務教育課で人事業務を担当した経験を生かし、教員採用試験受験者に対して具体的な対策法を提示しながら就職支援をしていく。
クラス学生、ゼミ生を問わず、学生の教育関係はもちろんのこと、それ以外の質問や相談にいつでも気軽に応じることができるように努める。
ゴルフ同好会顧問として、健全な同好会運営を推進する。

2. 点検・評価

前期の教職大学院及び学部学生による授業評価は、高かった。特に、学部の教育課程論、教育評価論の教科においては満足度が高かった。教職大学院の授業においても満足できる評価であった。
後期授業、「教科・研究主任の力量形成(P1現職)」は全体の評価平均値は高く、本授業の目的は達成されたといえる。また、「授業実践フィールドワーク」は全国的な研究会における優れた実践研究を参観し、その検討会を行う意義は、受講生のアンケート結果から十分に達成されていると判断できる。
教員採用試験に向けて、採用試験対策として面接指導、論文指導を行った。学生からは、これまでと違った視点から教員採用試験に取り組むことができたという好評を得た。
担当の教職大学院生に限らず、学部生の教職に関する相談に丁寧に対応した。特に、長期履修生にたの教育関係はもちろんのこと、それ以外の質問や相談にいつでも気軽に応じることができている。
「ゴルフ同好会」担当として健全な同好会運営に尽力することができた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

これまでのカリキュラム開発の研究実績を踏まえ、幼保小接続カリキュラムの研究成果を著書にまとめる。
これまでの学校改善に関する研究実績を踏まえ、学校づくりに関する研究成果を著書にまとめる。
成果を実践に関する研究論文を発表することにつとめる。
科学研究費補助金に積極的に申請していく。

2. 点検・評価

幼保小接続カリキュラムの研究成果を著書にまとめることができた。「子どもの育ちと学びをつなぐ 一 幼小連携のあり方と接続カリキュラムの作成 - Mj-Books」
学校づくりに関する研究成果を著書にまとめることができた。「教育フォーラム 50 <やる気>を引き出す・<やる気>を育てる 第10章 生徒の<やる気>と学校づくり 金子書房」
幼稚園の学校評価に関する研究をまとめ、学会誌に掲載された。「(A論文) 幼稚園の学校評価における外部アンケート項目作成の試み 学校教育研究 第27号 日本学校教育学会」
紀要等にも3本の論文掲載した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

教職大学院高度学校教育実践専攻のコラボレーションオフィスコーディネーター及び2年院生のグループ担当教員として、専攻長・副専攻長・チーフコーディネーター及び他のコーディネーターや事務担当者とともに、教職大学院の教育活動の推進に向けて各種企画・実務を行う。
平成25年度教職大学院コース改変のむけて、カリキュラム改善に取り組む。

2. 点検・評価

コラボレーションオフィスコーディネーター及び2年院生のグループ担当教員として、専攻長・副専攻長・チーフコーディネーター及び他のコーディネーターや事務担当者とともに、教職大学院の教育活動の推進に向けて各種企画・実務を行うことができた。
平成25年度教職大学院コース改変のむけて、カリキュラム改善に取り組むことができた。
学校、教育委員会、教育研究団体等からの招待講演・講話の際において、大学院定員充足のために、本学、教職大学院について積極的に広報活動を行った。
大学と徳島県教育委員会とのプロジェクトにも貢献できた。また、教職大学院と鈴鹿市教育委員会とも連携事業にも貢献することができた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

教職大学院の連携協力校(実習校など)との連絡調整にも積極的に取り組む。
教育研究の成果を積極的に教育現場に広め貢献していく。特に、現職教員等に関わる研修への協力要請があれば、積極的に対応していく。
附属学校の教育研究会等について、積極的に協力する。

2. 点検・評価

「特例社団法人 日本精神科看護技術協会主催 教育理論研修会」「文部科学省・和歌山県主催 平成24年度 幼稚園・保育所関係職員合同研修会」「奈良県国公立幼稚園園長会主催 奈良県国公立幼稚園園長会研究協議会」「姫路市教育委員会主催 保幼小連携研修会」「尼崎市立日新中学校校内研修会」「鈴鹿市白鳥中学校校内研修会」「阿久根市教育委員会・阿久根市小中校長会・教頭会 教育講演会」「目白大学児童教育学科公開講座」等、都道府県の研修センターからの研修講座、市教育委員会、小中学校からの依頼、アドバイザー等派遣事業による依頼など積極的に対応し、これまでの研究成果を広く公開してきた。
鈴鹿市教育委員会と本学との連携協定に基づき、行われている公立学校を対象とした教育改善に関する実践とそれにかかわる研究に関して、拠点校担当者として積極的に協働的な関係を構築を行った。
福井市教育委員会 魅力ある学校づくり調査委員として これまでの研究成果を基に助言を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)